



2020

4年後のことを言うと、鬼も笑えない。

FUKUYAMA
Eiji Murakami presents

【財政問題】国は財源が確保できない場合には紙幣を印刷すれば良く、国民の預金で赤字国債の帳尻が合わせられています。毎年数十兆円の借金を膨らまし、少子高齢化で税収が減り、社会保障費が膨らむ一方で、国民の預金が目減りしている現実に対し、預金を担保にして、勝手に赤字国債を発行している日本の政治。自分一人が税金の使い道を訴えても何も変わらないのが現実です。

村上栄二 HP
「村上栄二しんぶん増刊号」
<https://murakamieijicom.jimdo.com>



こちらのQRコードからもアクセスいただけます。

今回のテーマ、ざっくり言うと…

- ・ 財政・地球温暖化・首長選挙・北朝鮮・少子高齢化問題。
- ・ 5つの課題は「直接の影響を感じにくいから人々を無関心にする」事こそが課題解決の困難さを招いている。
- ・ 「子供たちの笑顔を創り出すことが未来に繋がる笑顔だ」という事。

【地球温暖化問題】熱波、洪水、干ばつや台風。いま世界では、気候変動による災害が頻発しています。気候変動をもたらしているのは、地球温暖化問題であり、海水の高温暖化により魚も減少し、干ばつ等により食糧難となっていると言っている評論家もいれば、地球温暖化は関係ないと言っている評論家もいます。しかし、気候変動などの諸現象の最大の要因は一九〇〇年代16億人から二〇一五年73億人と急激な人口増が大きな原因だと推察されます。また、環境問題は3つのP（POPULATION：人口、POVERTY：貧困）が原因だと言われています。人は寝たままでもCO2を年間300キロ吐き出しています。地球上の人口増に伴う温暖化は必然であり、異常気象ではなく原因と結果は一致しているだけだと考えられます。解決策はただ一つ、地球上の人口を抑制するしかないと思います。自分一人がエコ活動を頑張っても仕方ない状況にあると思います。

【首長選挙問題】大きな争点がないのに与野党が手を結び選挙応援をする県知事選挙や市長選挙。政策が違う自民党と民進党、立場の違う経営者と労働者のそれぞれの団体が同一候補を応援しているのが現在の地方選挙。行政のトップをチエック機能である議会が支援するから、なれ合い政治が地方では

生まれてしまいます。さらに組織政党団体が支援することで選挙をする前からの出来レースに県民・市民共に無関心になっていきます。しかしながら、無関心政治にしている政治家たちが一生懸命『政治に関心を持ってください』と言っています。こういった状況が続くから地方議会不要論が根強くあるのだと思います。つまり、自分の一票では何も変わらないと国民が思ってしまうのです。

【北朝鮮問題】ミサイルが届く距離にありながら、ミサイルが落ちないと言ってしまう多くの国民。津波や地震のアラート（警報）は国民全員が必要性を感じているのに、「アラートに対しては無関心。その理由は、津波と地震を体験しているから：ではないのでしょうか。戦後70年がもたらした平和意識は一方で危機管理意識を失う国民を作り上げてしまった、とも言えます。国民は、どうせミサイルは落ちないし、戦争はない、というのが本音でしょう。

【少子高齢化問題】人口減少・少子高齢化社会の到来を訴えても、ほとんどの人に危機意識はありません。でも、財政破綻した夕張市民なら危機感強いと思います。なぜなら、財政破綻と人口減少を体験している都市であるから：です。人口減少に伴う日々の変化はわずかであり、昨日今日で何かが変わるわけではありません。これこそ

が人口減少・少子高齢化の真の問題であり課題解決の難しさであると思います。

以上掲げた5点の課題は「影響を感じにくいから人々を無関心にする」という同一の課題解決の難しさを内包しています。政治家を志す者であるならば、起きないという楽観論ではなく、最悪のケースを想定して政策に取り組む必要があると考えています。私たちは常に次の世代を想い「子供たちの笑顔を創り出す事が未来に繋がる笑顔だという事」が唯一の結論だと信じています。

